

業」が開かれた。玄田有史・東京大学社会科学研究所教授と出口治明・立命館アジア太平洋大学長、藻谷浩介・日本総合研究所主席研究員の3氏を講師に招き、全国から参加した約120人が教室を埋め、廊下まであふれた。

佐渡地域力幸醸委員会が年1回開くイベントで6回目。今年のテーマは「佐渡島から考える、人が減っても出来ること」。

玄田教授は東日本大震災の被災地を訪れた際、持参したカレンダーが被災者に喜ばれた経験を紹介したうえで、人手や金、時間のかかる地域振興策より、人が希望を持って生きていける小ネタが鍵になるとの「K-NT理論」を提唱した。

出口学長は、大分県別府市の立命館アジア太平洋大学で学ぶ学生の半分は92カ国・地域から来ているという現状を紹介し、「わくわくする、面白いものを作れば

学校蔵の授業 廊下まで熱気

佐渡で6回目

佐渡市の旧西三川小学校で1日、「学校蔵の特別授

お客様の価値を創造する
ソリューション &
サポートカンパニー

for the Best

和同情報システム株式会社

<http://www.wadou.co.jp>

人は集まってきます」と語った。藻谷研究員は、昨年の日本の輸出額は過去最高だったと述べ、人が減っても、オンラインワンの商品やロボットの活用で増えることがあると指摘した。(古西洋)